

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	ロジネットデザイン横浜
資金分配団体名:	一般社団法人全国食支援活動協力会
実行団体名:	ココロにたねまき
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	神奈川県
	●横浜市内で子供達を支援する団体（子ども食堂、こどもの居場所づくり、学習支援等）
事業対象者:	●それらの団体を利用する子供達
	●母子生活支援施設、寄添い型生活、学習支援施設等

Version 3.2
日付: 2022年3月15日

I. 事業概要

事業実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品を冷凍・冷蔵・常温にて適切に一時保管し、在庫を管理するパントリー事業 ・フードバンク→パントリー→各支援団体へ支援物品の運搬事業 <p>後方支援事業として、受け入れた食料品を冷凍・冷蔵・常温にて適切に一時保管し、在庫を管理するパントリーを持ち、社会福祉協議会や食支援団体などが所有する、子供を支援する団体等へ連絡を取り合う為のメーリングリストに、提供可能な食料品、日用品の情報を掲載頂き、多くの子供を支援する団体と繋がり、食料品、日用品をお届けする仕組みを構築し、ソーシャルセーフティネットの維持に寄与する活動を行います。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>当初より課題の共有ができていた南区では、想定通り事業展開する事ができた。他区に於いては、フードパントリー事業によって関係構築できた区では"子ども達を支援する団体"、またその団体より紹介された別の区の団体への事業展開を行う事ができた。しかしながら、以前より人間関係が構築がなされていた南区と比較すると想定より展開が進まず、必要に応じて南区社協等に依頼し、南区での事業展開を説明して頂く等の対応を行う事で事業の進展を目指したが、個人・団体としての信頼関係の構築に時間をかける必要性を実感した。事業設計に関しては、採択後に想定していた活動範囲から市内全域へ活動範囲を広げた事により、受け入れ拠点の拡充ができた事は成果のひとつではあったものの、定期的な支援物資の確保、輸送体制の見直し、未開拓地へのアプローチ方法検討等、事業終了後に課題を多く残す事となった。今後は物理的な課題に取り組みつつ、この事業がきっかけで支援体制を構築したネットワーク・団体への継続支援、新たな団体との信頼関係の構築を地道に進め、支援者の気持ちと物資が既存の"子ども達を支援する団体"をとおして行き渡る仕組み作りにも寄与したい。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
中間支援者	食料関連の不足	活動拠点や車両を持たない団体が支援している子供達にも、食糧支援団体の支援物品が届く機会を与えられるネットワークの構築。	メーリングリストの登録団体数	このネットワークを通じて支援されたであろう子供の累計10000人	メーリングリストを活用する程大量の支援品を取り扱う機会が少なかった為、個別に利用しにくく、活用を促す事で支援品を受け渡した。（メーリングリストを活用して提供したキュービー未来たまご財団様の寄贈品、フードバンク愛知様の寄贈品を合わせておおよそ1400人、ココロにたねまき4カ所のパントリーで累計約680世帯、近隣の子ども食堂が累計1300人、母子寮寄添い型施設等へ累計約300世帯、その他市内の子ども達を支援する団体へ累計480世帯、西区社協が区内の団体へ配布した分、常設型フードパントリー等は利用世帯数不明)	支援品の物量が限られている場合、定期的に支援品が必要な団体には、定期的に支援品を受け取るようサポートを行い、学習支援団体にはお菓子類を、子ども食堂には大袋や大型缶詰等の食料品を渡すなど、団体に合わせた支援品をこちらで選別して渡す方法で支援品を分配した。今後ウェブシステムによって作業効率上がる事に大きな期待を寄せている。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>生鮮品(40kg)、冷凍品(120kg)、ドライ品(300kg)、米(300kg)を流動的に保管・管理するパントリーを保有 支援品受入ボランティア（5,6名）と衛生を含めた管理体制の確立 社会福祉協議会等と連携して多くの子供を支援する団体と繋がる・子ども食堂等の活動が地域に根付いた活動となるように、また団体が孤立しないよう課題の共有や情報の発信を通じたサポートができる状態。</p>
考察等	<p>今回この事業を実施した事で、南区に約400Lの冷蔵庫、約900Lの冷凍庫、約16畳の倉庫スペース、都筑区に約400Lの冷蔵庫、1400Lの冷凍庫、約24畳の倉庫スペース、菊名に200Lの冷蔵庫、芹が谷に約2畳の倉庫スペースを備える事ができた。その結果、定期的な支援品の受け取りを希望する団体へはその方法を伝え、必要な団体には支援品運搬のサポートを行う事が可能となった。また、メーリングリスト以外にも単発の支援品を子ども達に届ける為に、横浜市内でフードパントリー事業を行う別団体とも協力関係を構築する事ができた。今後更に横浜市内の"子ども達を支援する団体"と繋がり、必要な支援品を行き渡らせる為には、関係各所との信頼関係の構築に加え、一度に大量の支援品を運搬できる車両とボランティアドライバーの確保が当面の目標と考える。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
情報を広めて頂けるよう、各区の社会福祉協議会等と話し合いを持つ	ほぼ計画通り	横浜市18区の中で、定期的に情報交換を行っている区社協が5カ所、不定期に訪問している区社協が7箇所、一度も話をしていない区社協が6カ所あり、我々がこの事業を通し不定期に支援品を渡している"子ども達を支援する団体"のうち2団体が話をしていない区にあるので、今後更なる協力関係を構築し、区社協に繋いで貰うよう働きかけを行う。
情報の発信（新規団体登録フォーム、支援品受渡しフォームを作成）	ほぼ計画通り	新規団体登録と支援品受け渡しフォームを"googleフォーム"で作成した。この事業を通して支援品情報を提供した団体は46団体、実際に支援品の受け渡しを行った団体は29団体、そのうち毎月支援品の受渡しを行っている団体は6団体である。
支援品の受け取り。拠点への配送。適宜在庫管理。	計画通り	現行の、各団体が其々で支援品を受け取りに行く作業を代行して行った事で分かった事は、この仕組みを市内18区で別々に行った場合、各区に2、3カ所の拠点と車両が必要となり効率的ではない。そこで、代行する団体が別事業として18区の支援品輸送を一括して代行し、荷下ろしを各区で支援品運搬を利用する団体が担うようにデザインできれば、合理的かつ安定的に支援品を利用する世帯に行き渡るのはないか。そしてその仕組みの中に食支援活動協力会のウェブシステムを組み込む事で、支援に幅を持たせる事ができるのではないかと考える。
拠点在庫より各支援団体へ受け渡す。又は配達する。	計画通り	今回近隣の保管場所を持たない活動団体の支援品を一時的に保管した事により、先方の個人的負担を軽減し、活動の継続に寄与できる事が分かった。また、先日支援品の受渡しを依頼された団体の話から、各町内会館等に防災品を備蓄し、流動的に管理する名目で支援品の一時保管の承認を得たと聞き、この事例を大きく取り上げ発信する事で、市内の町内会を管理する方たちの理解を深め、町内会館を保管場所として利用できる可能性を広げられるのではないかと考えた。
可能であれば支援した記録写真を頂く。	ほぼ計画通り	定期的に支援品の受け取りを希望する団体には記録写真の提供を頂いた。
拠点を増やし、その地域の方に配達してもらい体制を作る。	ほぼ計画通り	南区の拠点の他に、【都筑区】約400Lの冷蔵庫・1400Lの冷凍庫・約24畳の倉庫スペース【港北区】一時保管庫場所・200Lの冷凍庫【港南区】一時保管庫場所・約2畳の倉庫スペース【西区】一時保管庫場所を整備した。また週末の活動が主になるが、南区5人、港北区2人、港南区3人、西区2人、都筑区2人、保土ヶ谷区1人、神奈川区1人、旭区1人、青葉区1人のボランティアドライバーを確保した。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉協議会やケアプラザ等、受け持ち地域や活動範囲が決まっている縦割団体が、その地域や範囲の企業等から預かった支援品を使い切れずに持ち余している場合、地域や範囲を限定しない我々のような団体が地域を超えて支援品を横すべりさせる事で、支援品を無駄なく必要な世帯に届ける事を是と考えている事が分かった。 ●対象となる団体に支援品提供団体も、別々に渡している支援品を一度に渡す事で省力化が図れるので、地域毎に取りまとめる事を良い変化と捉えている事が分かった。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	この事業を通して、定期的な支援品物流に於いて、提供側と受取側の間に入る事で、双方を利する事業となり得る事が分かり、この活動の市域への拡大を進める意義を見出すことができた。 またこの事業を発展させる事で、市内の対象となる団体の事業をサポートし、その先に繋がる支援を必要とする世帯の子供達へ支援品が行き渡る状況の継続が見込まれる。 利用する団体数が確保できれば、輸送用の車両と一時保管場所を利用し、受渡しを合理的に実施する事で、費用対効果の大きい事業となり得ると考察される。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
社会福祉協議会・ケアプラザ	其々が管理するメーリングリスト等による情報伝達、特定団体への仲介、地域活動のリサーチ
FBかながわ、FB横浜、セカンドリーグ神奈川	対象となる団体への定期的な支援品提供
セカンドハーベストジャパン、FBかながわ	支援を受けたい新規団体の受け入れ
親子の広場まんま	支援品の一時預かり、近隣活動団体への支援品提供
横浜子ども食堂ネットワーク	新規子ども食堂の紹介、ウェブシステムを活用した支援品提供の検討

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

事業費		計画額	実績額	執行率
		直接事業費	1,502,370	1,470,561
	管理的経費	272,630	264,588	97.1%
合計		1,775,000	1,735,149	97.8%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	芹が谷フードパントリーが地元の情報誌に掲載されました。（発行部数2000部 東永谷地域ケアプラザ発行 フレアイ 2021年9月号）
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	役員、職員に対する報酬制度、給与制度を採用していない為、規定はない。 リスク管理に関しては只今整備に向け、内容を検討中。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		規約、経理規定、倫理規定、コンプライアンス規定に関して、内容を検討、精査を行い、加筆、修正を実施。次の総会で変更の承認を求める予定。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	WEBサイトを改編予定。現在調整中のものに関しては、承認後、夏前を目標に一般公開の予定。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	